

文教民生常任委員会

令和2年7月10日
委員会室

1 開 会

2 協議事項

- (1) 令和元年度事務事業評価について
生活支援サポーター活動支援事業
- (2) 令和2年度事務事業評価対象候補事業について
野外活動施設維持管理事業
- (3) 所管事務調査について
障害者について
- (4) その他

議会による事務事業評価（総合）

評価対象事業名	生活支援サポーター活動支援事業		
所管常任委員会	文教民生常任委員会	評価者	
基本政策	つながりによる安心とうるおいが実感できるまち		
政策	高齢者福祉を充実する		
施策	高齢者の生活を支援する		

事業評価（5段階評価）

項目	評価	評価内容					
		理由（該当する項目を三段階で評価）					
		(○) 良好・すべき (△) どちらともいえない (×) 不良・すべきでない			○	△	×
妥当性	3.8	ア) 社会情勢からみて実施すべきか			7	0	0
		イ) 一定の成果が上がっているか、引続き継続すべきか			6	1	0
		ウ) 行政で行うべきか（税金を使うべきか）			5	0	1
		エ) 他事業とサービスが重なっていないか			2	4	0
		オ) 他自治体と比べサービスの対象、内容が適切か			0	5	0
		カ) 市民全員のためになっているか			1	4	1
有効性	3.2	ア) 前年以前と比較し、事業効果は上がっているか			1	4	2
		イ) 事業目標が達成できているか			1	3	3
		ウ) 目標が達成可能な事業であるか			4	3	0
		エ) 目標が低く設定されていないか			2	4	0
		オ) 職員や外部からの人材活用が十分なされているか			2	1	2
		カ) 環境を保全する配慮がなされているか			0	2	0
効率性	3.4	ア) コスト削減を考えたとき、実施方法は適切か			5	2	0
		イ) 提供するサービスの質を考えたとき、実施方法は適切か			1	3	2
		ウ) 地域、民間業者等に委託することが望ましくないか			0	3	2
		エ) 事業に投入された人員は適切か			4	1	0
		オ) 事業の合理化は図られているか			2	4	0
		カ) 受益者負担等は適切か			3	2	0

総合評価		(事業評価に対する特記事項及び今後の方向性の理由)
------	--	---------------------------

今後の方向性 ※単年度事業以外はその理由を総合評価に対する特記事項に記載		拡充
		現状のまま継続すべき
		見直しのうえ継続すべき
		事業単位を見直し (統廃合・縮小のうえ継続)
		廃止

評価指標	
5	極めて高い
4	高い
3	普通
2	低い
1	極めて低い

議会による事務事業評価（議員）

評価対象事業名	生活支援サポーター		
所管常任委員会	文教民生常任委員会	評価者	近藤文博
基本政策			
政策			
施策			

事業評価（5段階評価）

項目	評価	評価内容			
		理由（該当する項目を三段階で評価）			
		(○) 良好・すべき (△) どちらともいえない (×) 不良・すべきでない			
妥当性	4	ア) 社会情勢からみて実施すべきか	○		
		イ) 一定の成果が上がっているか、引続き継続すべきか	○		
		ウ) 行政で行うべきか（税金を使うべきか）	○		
		エ) 他事業とサービスが重なっていないか		△	
		オ) 他自治体と比べサービスの対象、内容が適切か		△	
		カ) 市民全員のためになっているか		△	
有効性	3	ア) 前年以前と比較し、事業効果は上がっているか			×
		イ) 事業目標が達成できているか			×
		ウ) 目標が達成可能な事業であるか	○		
		エ) 目標が低く設定されていないか		△	
		オ) 職員や外部からの人材活用が十分なされているか			×
		カ) 環境を保全する配慮がなされているか		△	
効率性	3	ア) コスト削減を考えたとき、実施方法は適切か		△	
		イ) 提供するサービスの質を考えたとき、実施方法は適切か			×
		ウ) 地域、民間業者等に委託することが望ましくないか		△	
		エ) 事業に投入された人員は適切か	○		
		オ) 事業の合理化は図られているか		△	
		カ) 受益者負担等は適切か		△	

総合評価	3.3	この事業は、今後益々増加する高齢者（特に独り住まいの高齢者）にとって必要なサービスとなる可能性が高い。しかし、まだ十分に機能しているとは言えず、この事業の更なる周知やサポート内容の受け手のニーズ分析、ヘルパーとの分担の明確化などがかだいである。ただし、サポーターの養成は、地域コミュニティの形成に寄与し、またサポーター自身の社会性が向上する効果が見られ評価できる。
------	-----	--

今後の方向性 ※単年度事業以外はその理由を総合評価に対する特記事項に記載		拡充
		現状のまま継続すべき
	○	見直しのうえ継続すべき
		事業単位を見直し (統廃合・縮小のうえ継続)
		廃止

評価指標	
5	極めて高い
4	高い
3	普通
2	低い
1	極めて低い

議会による事務事業評価（高瀬）

評価対象事業名	生活支援サポーター		
所管常任委員会	文教民生常任委員会	評価者	高瀬 洋
基本政策			
政策			
施策			

事業評価（５段階評価）

項目	評価	評価内容			
		理由（該当する項目を三段階で評価）			
		(○) 良好・すべき	(△) どちらともいえない	(×) 不良・すべきでない	
妥当性	4	ア) 社会情勢からみて実施すべきか	○		
		イ) 一定の成果が上がっているか、引続き継続すべきか	○		
		ウ) 行政で行うべきか（税金を使うべきか）			×
		エ) 他事業とサービスが重なっていないか		△	
		オ) 他自治体と比べサービスの対象、内容が適切か		△	
		カ) 市民全員のためになっているか		△	
有効性	3	ア) 前年以前と比較し、事業効果は上がっているか		×	
		イ) 事業目標が達成できているか		×	
		ウ) 目標が達成可能な事業であるか	○		
		エ) 目標が低く設定されていないか		△	
		オ) 職員や外部からの人材活用が十分なされているか			×
		カ) 環境を保全する配慮がなされているか		△	
効率性	2	ア) コスト削減を考えたとき、実施方法は適切か		△	
		イ) 提供するサービスの質を考えたとき、実施方法は適切か		×	
		ウ) 地域、民間業者等に委託することが望ましくないか			×
		エ) 事業に投入された人員は適切か	○		
		オ) 事業の合理化は図られているか		△	
		カ) 受益者負担等は適切か	○		

総合評価	3	<p>（事業評価に対する特記事項及び今後の方向性の理由）</p> <p>この事業のニーズはあると考えるが、まだ十分に浸透していないと思います。サポート内容の充実、必要要員の数と種類、ヘルパーとの棲み分け等を十分に検討し実施する。実施後はPDCAを繰り返してより市民のニーズに合った事業への展開していくのが良いと思います。</p>
------	---	--

今後の方向性		拡充
※単年度事業以外はその理由を総合評価に対する特記事項に記載		現状のまま継続すべき
	○	見直しのうえ継続すべき
		事業単位を見直し (統廃合・縮小のうえ継続)
		廃止

評価指標	
5	極めて高い
4	高い
3	普通
2	低い
1	極めて低い

議会による事務事業評価（議員）

評価対象事業名			
所管常任委員会		評価者	坂部武美
基本政策			
政策			
施策			

事業評価（5段階評価）

項目	評価	評価内容			
		理由（該当する項目を三段階で評価）			
		(○) 良好・すべき (△) どちらともいえない (×) 不良・すべきでない	○	△	×
妥当性	3	ア) 社会情勢からみて実施すべきか	○		
		イ) 一定の成果が上がっているが、引続き継続すべきか		△	
		ウ) 行政で行うべきか（税金を使うべきか）	○		
		エ) 他事業とサービスが重なっていないか		△	
		オ) 他自治体と比べサービスの対象、内容が適切か		△	
		カ) 市民全員のためになっているか		△	
有効性	3	ア) 前年以前と比較し、事業効果は上がっているか		△	
		イ) 事業目標が達成できているか		△	
		ウ) 目標が達成可能な事業であるか		△	
		エ) 目標が低く設定されていないか		△	
		オ) 職員や外部からの人材活用が十分なされているか		△	
		カ) 環境を保全する配慮がなされているか			
効率性	3	ア) コスト削減を考えたとき、実施方法は適切か	○		
		イ) 提供するサービスの質を考えたとき、実施方法は適切か		△	
		ウ) 地域、民間業者等に委託することが望ましくないか		△	
		エ) 事業に投入された人員は適切か		△	
		オ) 事業の合理化は図られているか		△	
		カ) 受益者負担等は適切か		△	

総合評価	3	（事業評価に対する特記事項及び今後の方向性の理由） 介護保険制度による「介護予防・日常生活支援総合事業」の中で、訪問型サービスとして、本事務事業評価対象の生活支援サポーターによる訪問家事支援サービス事業を行っているが、平成29年度から令和元年度までの活動実績を見ると、対象となる要支援認定者等649人のうち利用者は13人、また、サポーター養成講座を修了し登録されているサポーター58人(令和元年度)のうち17人しか活動していないことから判断すれば、利用者が少ないこと、当然それに伴いサポーター要請が少ないという状況である。 では、どのようにすれば利用者が増えるのか。ごみ出し、買物代行、話し相手がベスト3であるが、利用者が希望する内容に対応できるサポーター登録や、そのためには、仲介役であるケアマネージャーの対象者からのさらなる聞き取りも必要と感じる。 なお、本事業の目的である介護予防と日常生活の自立を支援することによって住み慣れた地域で自立した生活を送ることから考えれば、地域コミュニティの中での支援が必要であり、事実、近所の人のごみ出しや買物代行を行っている例もある。 1人でも希望者があれば継続すべきであり、また、サポーターは訪問家事支援だけを担わなくてもよいと思っており、市が100人のサポーターを目指しているのならば、現状分析と併せて訪問家事支援以外の他の事業のサポートも検討すべきと考える。		

今後の方向性 ※単年度事業以外はその理由を総合評価に対する特記事項に記載		拡充
		現状のまま継続すべき
	○	見直しのうえ継続すべき
		事業単位を見直し (統廃合・縮小のうえ継続)
		廃止

評価指標	
	極めて高い
	高い
	普通
	低い
	極めて低い

議会による事務事業評価（村井正信）

評価対象事業名	生活支援サポーター活動支援事業		
所管常任委員会	文教民生民生常任委員会	評価者	村井正信
基本政策			
政策			
施策			

事業評価（5段階評価）

項目	評価	評価内容		
		理由（該当する項目を三段階で評価）		
		(○) 良好・すべき	(△) どちらともいえない	(×) 不良・すべきでない
妥当性	4	ア) 社会情勢からみて実施すべきか	○	
		イ) 一定の成果が上がっているか、引続き継続すべきか	○	
		ウ) 行政で行うべきか（税金を使うべきか）	税金使用せず	
		エ) 他事業とサービスが重なっていないか	○	
		オ) 他自治体と比べサービスの対象、内容が適切か		△
		カ) 市民全員のためになっているか		×
有効性	4	ア) 前年以前と比較し、事業効果は上がっているか	○	
		イ) 事業目標が達成できているか	○	
		ウ) 目標が達成可能な事業であるか		△
		エ) 目標が低く設定されていないか		×
		オ) 職員や外部からの人材活用が十分なされているか	○	
		カ) 環境を保全する配慮がなされているか	不明	
効率性	4	ア) コスト削減を考えたとき、実施方法は適切か	○	
		イ) 提供するサービスの質を考えたとき、実施方法は適切か	○	
		ウ) 地域、民間業者等に委託することが望ましくないか	奉仕活動 判断不可	
		エ) 事業に投入された人員は適切か	判断不可	
		オ) 事業の合理化は図られているか	○	
		カ) 受益者負担等は適切か	負担なし	

総合評価	4	<p style="font-size: small;">（事業評価に対する特記事項及び今後の方向性の理由）</p> 生活支援サポーター活動支援事業は、介護保険から外れた高齢者を地域の人々が生活支援サポーターとなり、ボランティア活動として支えるよう要請しようとするものである。介護保険制度からすれば、財政的負担を減らすことが目的化しており、大いに疑問視するところであるが、サポーターが自らの楽しみや生きがいとして取り組まれているのであれば、評価して良いと考える。その場合、利用者から要望を詳細に聴き取り、サポート項目を増やすことが必要である。一方、利用者は介護保険適用を求めており、今後増える要素はあるのか課題と考える。
------	---	--

今後の方向性		拡充
※単年度事業以外はその理由を総合評価に対する特記事項に記載		現状のまま継続すべき
	○	見直しのうえ継続すべき
		事業単位を見直し (統廃合・縮小のうえ継続)
		廃止

評価指標	
5	極めて高い
4	高い
3	普通
2	低い
1	極めて低い

議会による事務事業評価（議員）

評価対象事業名	生活支援サポーター		
所管常任委員会	文教民生	評価者	寺北建樹
基本政策			
政策			
施策			

事業評価（5段階評価）

項目	評価	評価内容			
		理由（該当する項目を三段階で評価）			
		(○) 良好・すべき (△) どちらともいえない (×) 不良・すべきでない			
妥当性	4	ア) 社会情勢からみて実施すべきか	○		
		イ) 一定の成果が上がっているか、引続き継続すべきか	○		
		ウ) 行政で行うべきか（税金を使うべきか）	○		
		エ) 他事業とサービスが重なっていないか			
		オ) 他自治体と比べサービスの対象、内容が適切か			
		カ) 市民全員のためになっているか			
有効性	3	ア) 前年以前と比較し、事業効果は上がっているか		○	
		イ) 事業目標が達成できているか		○	
		ウ) 目標が達成可能な事業であるか	○		
		エ) 目標が低く設定されていないか			
		オ) 職員や外部からの人材活用が十分なされているか			
		カ) 環境を保全する配慮がなされているか			
効率性	4	ア) コスト削減を考えたとき、実施方法は適切か	○		
		イ) 提供するサービスの質を考えたとき、実施方法は適切か			
		ウ) 地域、民間業者等に委託することが望ましくないか			
		エ) 事業に投入された人員は適切か			
		オ) 事業の合理化は図られているか			
		カ) 受益者負担等は適切か			

総合評価	4	支援内容を現在の3つから要求に応じてできるだけ増やすこと。 また、要支援の人たちのサポートだけではなく、地域福祉の観点からも、サポーター研修を継続し、修了者を増やすことが大事。
------	---	---

今後の方向性 ※単年度事業以外はその理由を総合評価に対する特記事項に記載		拡充
		現状のまま継続すべき
	○	見直しのうえ継続すべき
		事業単位を見直し (統廃合・縮小のうえ継続)
		廃止

評価指標	
5	極めて高い
4	高い
3	普通
2	低い
1	極めて低い

議会による事務事業評価（議員）

評価対象事業名	生活支援サポート事業		
所管常任委員会	文教民生常任委員会	評価者	村井公平
基本政策			
政策			
施策			

事業評価（5段階評価）

項目	評価	評価内容			
		理由（該当する項目を三段階で評価）			
		(○) 良好・すべき	(△) どちらともいえない	(×) 不良・すべきでない	
妥当性	4	ア) 社会情勢からみて実施すべきか	○		
		イ) 一定の成果が上がっているか、引続き継続すべきか	○		
		ウ) 行政で行うべきか（税金を使うべきか）	○		
		エ) 他事業とサービスが重なっていないか		○	
		オ) 他自治体と比べサービスの対象、内容が適切か		○	
		カ) 市民全員のためになっているか	○		
有効性	3	ア) 前年以前と比較し、事業効果は上がっているか		○	
		イ) 事業目標が達成できているか			○
		ウ) 目標が達成可能な事業であるか	○		
		エ) 目標が低く設定されていないか	○		
		オ) 職員や外部からの人材活用が十分なされているか			
		カ) 環境を保全する配慮がなされているか			
効率性	4	ア) コスト削減を考えたとき、実施方法は適切か	○		
		イ) 提供するサービスの質を考えたとき、実施方法は適切か		○	
		ウ) 地域、民間業者等に委託することが望ましくないか			○
		エ) 事業に投入された人員は適切か	○		
		オ) 事業の合理化は図られているか		○	
		カ) 受益者負担等は適切か	○		

総合評価	4	（事業評価に対する特記事項及び今後の方向性の理由）今後、地域での助け合い、支え合いが必要になってくる。そのためには、生活支援サポーター講習を継続し、ボランティアとして活動できる人を養成する必要がある。そのために現在の利用は少ないが事業継続が必要である。
------	---	--

今後の方向性 ※単年度事業以外はその理由を総合評価に対する特記事項に記載		拡充
		現状のまま継続すべき
	○	見直しのうえ継続すべき
		事業単位を見直し （統廃合・縮小のうえ継続）
		廃止

評価指標	
5	極めて高い
4	高い
3	普通
2	低い
1	極めて低い

議会による事務事業評価（議員）

評価対象事業名	生活支援サポーター活動支援事業		
所管常任委員会	文教民生常任委員会	評価者	浅田康子
基本政策	つながりによる安心とうるおいが実感できるまち		
政策	高齢者福祉を充実する		
施策	高齢者の生活を支援する		

事業評価（5段階評価）

項目	評価	評価内容			
		理由（該当する項目を三段階で評価）			
		(○) 良好・すべき (△) どちらともいえない (×) 不良・すべきでない			
妥当性	4	ア) 社会情勢からみて実施すべきか	○		
		イ) 一定の成果が上がっているか、引続き継続すべきか	○		
		ウ) 行政で行うべきか（税金を使うべきか）	○		
		エ) 他事業とサービスが重なっていないか	○		
		オ) 他自治体と比べサービスの対象、内容が適切か		△	
		カ) 市民全員のためになっているか		△	
有効性	4	ア) 前年以前と比較し、事業効果は上がっているか		△	
		イ) 事業目標が達成できているか		△	
		ウ) 目標が達成可能な事業であるか	○		
		エ) 目標が低く設定されていないか		△	
		オ) 職員や外部からの人材活用が十分なされているか	○		
		カ) 環境を保全する配慮がなされているか			
効率性	4	ア) コスト削減を考えたとき、実施方法は適切か	○		
		イ) 提供するサービスの質を考えたとき、実施方法は適切か		△	
		ウ) 地域、民間業者等に委託することが望ましくないか		△	
		エ) 事業に投入された人員は適切か	○		
		オ) 事業の合理化は図られているか	○		
		カ) 受益者負担等は適切か	○		

総合評価	4	（事業評価に対する特記事項及び今後の方向性の理由）事業開始から3年が経過している、その間サポーターは増加しているが利用者の数が伸びていない。しかし、この事業は利用者の数を増やすだけが目的ではなく、サポーター自身が社会参加をする喜びや自身の介護予防につなげようとするものである。サポーターのアンケート調査では・今までより地域の人様の様子を細やかに見るようになった・近くの人のお世話をするようになった等の意見が多くみられた。高齢化社会に向けて地域での支え合いや見守りなど今後ますますサポーターの役割は必要と予測されることから継続すべき事業と考える。
------	---	--

今後の方向性 ※単年度事業以外はその理由を総合評価に対する特記事項に記載		拡充
		現状のまま継続すべき
	○	見直しのうえ継続すべき
		事業単位を見直し （統廃合・縮小のうえ継続）
		廃止

評価指標	
5	極めて高い
4	高い
3	普通
2	低い
1	極めて低い